

# 陸稲新品種「ハタキヌモチ」について

小野 敏忠・岡野 博文・新妻 芳弘・阿部 祥治・石原 正敏

## I 緒 言

「ハタキヌモチ」は昭和40年に強稈の中晩生糯品種として陸稲農林糯44号に登録、同年より茨城県で奨励品種として採用、普及にうつされた品種である。育成の経過ならびにその特性の概要を報告する。

本品種の育成について、その適応性、特性の検定に御協力下さった関係各担当官各位に対し深甚の謝意を表し育成にあたって多数の人の援助を得たことを特記する。

## II 育種目標および育成経過

陸稲の作付は関東地方に多く、中でも茨城県は約3万ha以上の作付けがあり、その約73%は糯品種である。関東地方の代表的な糯品種である「農林糯26号」は長稈のために倒伏し易い欠点がある。従来陸稲栽培は、旱害、

病虫害、倒伏等のため作況が不安定で各地から「農林糯26号」に替る耐旱性、耐病性、強稈性などのすぐれた糯品種が望まれ、これを主な育種目標として育種を進めた。

育成の経過は第1表、第1図に示すとおりで、以下世代を追って経過概要を説明する。なお「ハタキヌモチ」は「ハタミノリモチ」と兄弟品種である。

交配：昭和22年に農林省石岡農事改良実験所において「陸稲農林糯1号」を母とし、「陸稲農林7号」を父として人工交配を行なった。参考に両親の特性を第2表に示した。

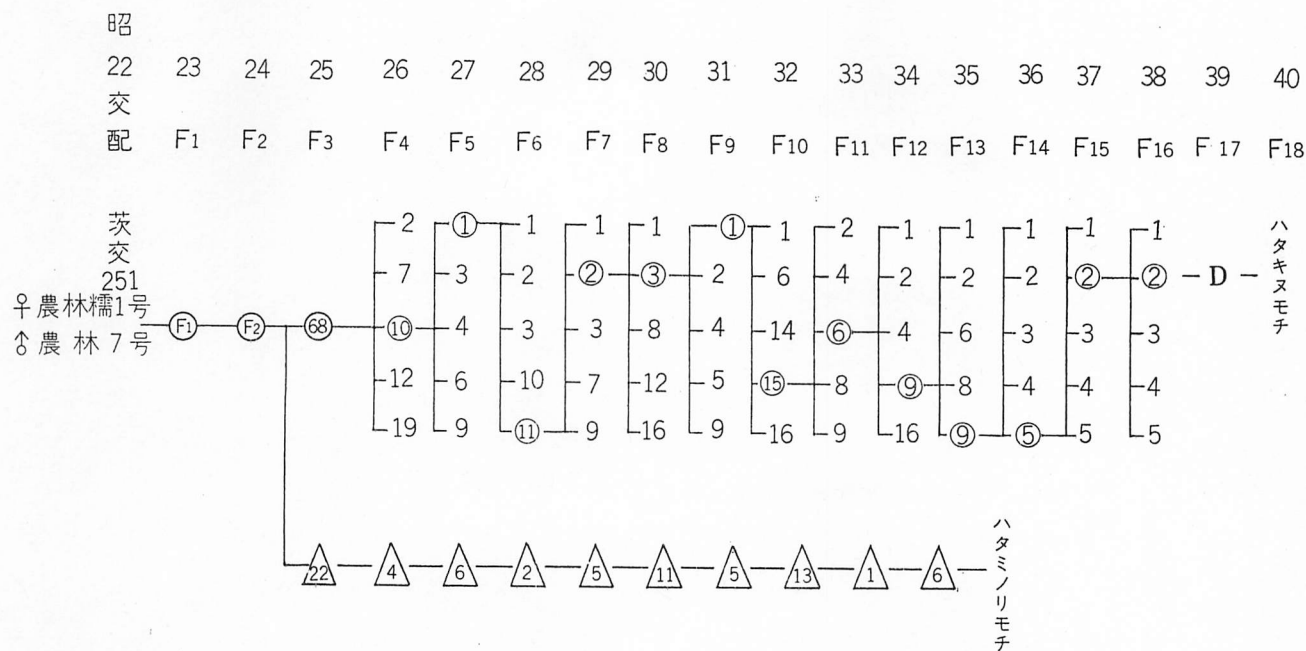
F<sub>1</sub>世代（昭和23年）：同実験所において12個体が養成された。形態的には、稈長は「農林糯1号」に類似し少～中の白芒を有し、両親よりも長稈でヘテロシスの現象が認められた。穂長は「農林7号」にやや類似し両親

第1表 育 成 経 過 一 覧 表

年 次 世 代	供 試 数			選 抜 数			配 布 数		備 考
	系統群数	系統数	個体数	系統群数	系統数	個体数	特 検	原 決	
昭和22年 交配									
23 F <sub>1</sub>			12						
24 F <sub>2</sub>			300			30			
25 F <sub>3</sub>		30			5	25			
26 F <sub>4</sub>	5	25		2	4	20			
27 F <sub>5</sub>	4	20		4	7	35			石系4号命名
28 F <sub>6</sub>	7	35		4	8	26			
29 F <sub>7</sub>	8	36		8	7	45	3	(6)	
30 F <sub>8</sub>	7	38		4	14	80	3	(6)	
31 F <sub>9</sub>	14	70		12	15	75	3	12	関東糯60号命名
32 F <sub>10</sub>	15	75		10	16	50	3	15	
33 F <sub>11</sub>	16	65		8	9	40	3	13	
34 F <sub>12</sub>	9	36		4	4	24	1	13	
35 F <sub>13</sub>	4	19		2	1	10	1	10	
36 F <sub>14</sub>	1	5		1	1	5	3	8	
37 F <sub>15</sub>	1	5		1	1	5	2	6	
38 F <sub>16</sub>	1	5		1	1	5	1	5	
39 F <sub>17</sub>	1	(1)		1	1	5		4	
40 F <sub>18</sub>	1	5		1	1	5			ハタキヌモチ命名

注：供試系統数中の（ ）は派生系統を示す。

原決中の（ ）は系統適応性検定試験を示す。



第1図 育成経過図

第2表 両親の特性一覧表

品 種 名	出穂期 (月日)	倒伏	いもち病	耐旱性	幼苗 草型	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 ( $m^2$ 当り)	稈の 細太	芒 多少 長短	玄米 品質	食味	備考
農林糯1号(母)	8.27	中	中	やや強	M	90	23.8	231	やや太	少 短	中	良	東北を除く 全国に適応
農林7号(父)	8.23	強	強	やや弱	EM	75	21.0	234	中	中 長	中	不良	関東の洪積 地に適応

の中間に位した。

F<sub>2</sub>世代(昭和24年): 熟期は「農林糯1号」に似てやや晩生, 草状は良好で強稈であった。糯と粳に分離し品質は糯に良質のもの多く, 穂数は一般に「農林糯26号」よりやや多かった。選抜の目標は「農林糯1号」の強稈, 多収にあり30個体を選抜した。

F<sub>3</sub>世代(昭和25年): 出穂期及び稈長の分離は両親の中間に分布, 一般に中稈, 中けつであり穂状は「農林糯1号」に類似していた。稈先色は白, 褐, 紫に分離した。耐病性の強いものと強稈性のものが認められ, 選抜は耐病性, 稈質, 品質に重点を置いて行なった。

F<sub>4</sub>世代(昭和26年): (茨城県農業試験場石岡試験地となる) 両親より早熟な系統が多く, 草状良く直立し強稈であった。稈長は両親のほぼ中間で無芒, 品質は中の上で両親よりすぐれ, いもち病耐病性は「農林21号」程度であった。各系統はほぼ固定し, 選抜は強稈性, 粒着品質等について行なった。

F<sub>5</sub>世代(昭和27年): 成熟期は「農林糯26号」より4~5日晩い, 稈長は短かくしかも強稈, やや多けつであった。いもち病耐病性, 耐旱性ともに優れ, 品質は「農林糯26号」と同程度であり, 有望なので「石系4号」と命名した。

F<sub>6</sub>世代(昭和28年): 「農林糯26号」と比較して, 成熟期は同程度で稈長は短かくやや多けつで多収であった。いもち病耐病性は強いが白葉枯病の耐病性では中である。耐旱性にも優れて他の兄弟系統とともに有望視された。

F<sub>7</sub>世代(昭和29年): この組合せには有望系統が多く(石系4, 5, 6号, 関東58号)「農林糯26号」よりやや早い系統と同程度の系統があった。「石系4号」は「農林糯26号」程度の中生種で, 短稈中けつであり, いもち病耐病性, 耐旱性に強い抵抗性を示し, 品質は良好で多収である。肥沃地・畑灌栽培に適應するものと見られた。

F<sub>8</sub>世代(昭和30年): 「農林糯26号」に比較して同程度の中生種で, やや短稈, 多けつ, 強稈で耐病性は概し

陸稲新品種「ハタキヌモチ」について

て強く、耐旱性もやや強い。収量は「農林糯26号」よりやや多収で、品質は良好、強稈なので畑灌栽培に適應するものと考えられた。

F<sub>9</sub>世代(昭和31年):成熟期は「農林糯26号」程度の中生種で、短稈、やや多けつ、強稈である。各種の病害に強い抵抗性をしめし、耐旱性も強く、また登熟力の優れた系統でもある。品質は上の部に属し、多収である。有望なので「関東糯60号」と命名した。

F<sub>10</sub>世代(昭和32年):「関東糯60号」は対照品種の「農林糯26号」に比較して、短稈で強稈、穂数はやや多く、良質、多収である。

いもち病耐病性、耐旱性ともに強いが、白葉枯病にはやや弱く唯一の欠点と思われた。しかし関係各都県14個所で好成績を示してかなり有望。

F<sub>11</sub>世代(昭和33年):「農林糯26号」に比較して特に多収ではないが、各年次、各地で安定した収量をあげ有望。成熟期は「農林糯26号」程度ではあるが、強稈で、いもち病耐病性、耐旱性に優れ、品質は「農林糯26号」に優り良質である。

F<sub>12</sub>世代(昭和34年):成熟期は「農林糯26号」より1~2日早い中生種で、やや短稈やや多けつである。本年の試験では倒伏したが「農林糯26号」より強稈とみられた。品質は中の上で、多収である。本年のいもち病耐病性は「農林糯26号」より劣った。

F<sub>13</sub>世代(昭和35年):成熟期は「農林糯26号」程度であり短稈、多けつ、強稈で多収である。いもち病耐病性、耐旱性ともに強と判定された。配布先における成績は関東地方で特に多収を示し、各地で有望視された。神奈川県における畑灌適應性検定試験でも多収を示した。

F<sub>14</sub>世代(昭和36年):前年と同様に短稈、多けつ、強稈である。長穂で特に稈質のしなやかさが認められ有望。この年の特検では葉いもち病は極強であったが、穂いもち病にはやや弱程度と判定された。

F<sub>15</sub>世代(昭和37年):配布先に於ける成績は茨城県栃木県の他鳥取、熊本両県でも多収性を示し有望視され

た。葉いもち病、穂いもち病ともに強と判定された。耐旱性にも優れ多収なことから「農林糯26号」に替る系統として期待された。

F<sub>16</sub>世代(昭和38年):各年に引きつづいて成熟期は「農林糯26号」程度であり短稈で強稈、やや多けつ、良質で多収。以上のことから有望視され、特に茨城県、神奈川県、鳥取県、熊本県で優良な成績をおさめた。耐病性の検定結果は強と判定された。

F<sub>17</sub>世代(昭和39年):成熟期は「農林糯26号」程度で強稈多収。耐病性、耐旱性にも優れ茨城、栃木、神奈川県で多収を示した。特に茨城県では「農林糯26号」に替る品種として有望視され奨励品種に採用することとした。

Ⅲ 特性の概要

1. 一般的特性について

a) 形態的特性

「ハタキヌモチ」は、中~やや短稈、やや多けつの品種で偏穂数型に属する。稈質は柔軟性とみ、短稈と相対倒伏抵抗性が強い。株は開きにくい穂先はやや開く穂揃、熟色、稔実ともに良好。芒は稀短で稈先色は白、粒大は中で「農林糯1号」程度、品質は「中の上」で脱粒性はやや難である。

b) 生態的特性

出穂期は関東地方で「農林糯26号」程度のやや晩い中晩生であるが、山添いでは出穂成熟がやや遅れる。西日本では「農林糯1号」よりやや早い。いもち病耐病性は「農林糯26号」程度で極強に属する。イネカラバエ、紋枯病には強いが、ごま葉枯病、白葉枯病にはやや弱い。耐旱性は、幼苗草型ではD~DMで極深根性とは考えられないが、現地試験及び特性検定試験の結果を総合してみると陸稲としてやや強~強に判定される。

生産力が高く畑灌栽培でも高い収量をあげる。特性の概要は第3~4表に示すとおりである。

第3表 特性調査成績

品 種 名	稈の細太	稈の剛柔	芒の多少	芒の長短	芒又は稈先色	稈色	粒着	脱粒難易	玄米形状	玄米大小	粳糯の別
ハタキヌモチ	中	やや柔	稀	短	白	白	稍密	難	中	中	糯
(比) 農林糯26号	〃	やや剛	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
(比) 農林糯1号	〃	〃	少	〃	〃	〃	中	中	〃	〃	〃
(比) ハタコガネモチ	〃	〃	稀	〃	〃	〃	稍密	難	〃	〃	〃

第4表 生育調査成績

品種名	試験年次	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	結実日数	白葉 枯病	紋枯 病	ごま葉 枯病	イネ カラ バエ	ニカ メイ 虫	いもち病		倒伏	稈長 (cm)	穂長 (cm)	m <sup>2</sup> 当 り穂数 (本)	
										葉も	穂も					
ハ タ キ ヌ モ チ	29	9.5	10.17	42		ム	少				ムビ	ム	50.7	17.8	206	
	30	9.4	10.10	36		ビ				ム	ビ		50.1	14.8	238	
	31	9.3	10.14	41		ビ少	ビ少				ビ少		47.5	16.5	229	
	32	8.29	10.12	44	ビ			ビ少	ビ		ビ		65.6	20.9	170	
	33	8.25	10.2	38					中	ビ			69.8	20.2	201	
	34	8.23	10.5	43		少ビ			少中	少	ビ	中多	79.2	21.9	205	
	35	8.20	9.30	40		ビ少	少	ビ少	ビ		少	ムビ	78.3	22.1	250	
	36	8.18	9.30	48							極強	やや弱	67.8	22.0	171	
	37	8.26	10.9	44							強	極強	ビ少	46.8	21.7	126
	38	8.16	10.2	47							//	//	少	76.1	21.6	246
39	8.24	10.10	47		多			中		//	強	ビ	70.1	18.3	320	
40	8.28	10.12	45		少					強・極強	極強	少	79.1	23.8	245	
平均	8.27	10.8	43		少					強	強	強	65.1	20.1	217	
農 林 糯 二 十 六 号 (比)	29	9.5	10.18	43		少	ビ少				ビ	ビ	53.6	17.1	184	
	30	9.1	10.10	40		少中				ム	ビ少		58.3	15.3	222	
	31	9.2	10.15	43		少	ビ少				少		54.6	16.9	205	
	32	8.30	10.16	47	ビ			少	ビ		ビ		73.2	21.8	168	
	33	8.26	9.28	34					甚	ムビ			79.2	20.3	206	
	34	8.23	10.5	43		少ビ	ビ少		少	ゴビ	ゴビ	中多	88.6	22.6	184	
	35	8.21	10.2	42		少中		少	多		ビ	中	86.0	21.9	261	
	36	8.18	9.26	39						強	やや強		77.4	21.4	207	
	37	8.27	10.11	45						極強	強	少中	51.9	20.5	184	
	38	8.16	10.2	47						強	//	少	83.1	21.6	276	
39	8.23	10.10	48		甚			中	//	//	多	70.1	18.5	252		
40	8.27	10.12	46		中多				//	強・極強	中多	88.7	23.6	262		
平均	8.26	10.6	43		少				強	強	やや多	72.1	20.1	217		
農 林 糯 一 号 (比)	29	9.5	10.18	43		ム	ビ				ビ	ビ少	64.5	18.9	186	
	30	9.6	10.16	40		少				ム	少中		58.3	16.4	222	
	31	9.3	10.17	44		少中	ビ少				少		58.6	17.3	208	
	32	8.30	10.15	46	ビ			少	ビ		ムビ		79.3	23.1	179	
	33	8.27	10.2	36					多	ムビ	ゴビ		83.2	20.9	184	
	34	8.24	10.8	45		中多			ビ	ビ	ム	中	96.2	23.6	183	
	35	8.22	10.3	42		ビ	少	ビ	ビ少		やや強	ビ少	89.5	23.3	253	
	36	8.22	10.2	41						やや強	強		84.9	22.8	191	
	37	8.26	10.8	43						強	//	中多	60.0	21.3	130	
	38	8.19	9.25	37						//	//	多	89.8	23.3	264	
39	8.23	10.10	48		多			中	//	//	中多	73.2	18.2	262		
40	8.30	10.15	46		中				中弱	極強	少	87.7	24.7	262		
平均	8.27	10.10	43		少				やや強	やや強	少多	77.1	21.2	210		
ハ タ コ ガ	29	9.6	10.8	32		ム	少				ビ		54.3	17.5	206	
	30	9.4	10.14	40		ビ少				ム	ビ		57.2	14.6	267	
	31	9.2	10.20	48		少	ビ少				少		55.3	16.9	237	
	32	8.29	10.12	44	ビ					ム	少ビ		71.7	21.0	179	

陸稲新品種「ハタキヌモチ」について

品種名	試験年次	出穂期(月日)	成熟期(月日)	結実日数	白葉枯病	紋枯病	ごま葉枯病	イネカラバエ	ニカメイ虫	いもち病			倒伏	稈長(cm)	穂長(cm)	m <sup>2</sup> 当り穂数(本)
										葉も	穂も	いち				
ハタコガネモチ(比)	33	8.27	9.29	33					中	ムビ				74.0	19.7	217
	34	8.23	10.7	45		少中			ビ少	ビ	ゴビ			85.2	20.5	223
	35	8.21	10.2	42		少	ビ少	ビ少	ビ少		ビ			81.8	21.7	262
	36	8.18	9.30	43						強	やや強			75.0	20.3	240
	37	8.24	10.4	41						極強	強	中~甚		58.1	21.1	152
	38	8.16	10.2	47						〃	中~強	ビ		85.3	21.3	276
	39	8.26	10.12	47		甚			多	強	強	多		82.2	20.8	279
	40	8.27	10.12	46		少				強・極強	極強	中		87.8	22.0	302
	平均	8.26	10.9	42		少				強	強	少中		72.3	19.8	237

第5表 耐旱性特性検定試験成績

種類	品 種 名	試 験 年 次 (昭 和)											
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
現 地 試 験	ハタキヌモチ	やや強	強	中	—	やや強	やや強	やや強	やや強	やや強	強	中	中強
	(比)農林糯26号	中	強	やや強	—	強	強	強	強	強	中	中	強
	(比)農林糯1号	〃	〃	〃	—	中	中	やや強	中	やや強	中	中	中強
	(比)ハタコガネモチ	〃	中	中	—	やや強	やや強	強	やや強	強	強	中	中
ガ ラ 框 試 験	ハタキヌモチ	やや強	中	やや強	—	中	中	—	—	—	—	—	—
	(比)農林糯26号	中	中	中	—	中	—	—	—	—	—	—	—
	(比)農林糯1号	中	〃	〃	—	〃	中	—	—	—	—	—	—
	(比)ハタコガネモチ	中	〃	〃	—	〃	—	—	—	—	—	—	—
ポ ット 試 験	ハタキヌモチ	—	—	—	—	—	強	やや強	中	—	—	—	—
	(比)農林糯26号	—	—	—	—	—	やや弱	やや弱	中	—	—	—	—
	(比)農林糯1号	—	—	—	—	—	中	やや強	強	—	—	—	—
	(比)ハタキヌモチ	—	—	—	—	—	—	中	強	—	—	—	—

注：昭和39, 40年は場内特検

2. 特性検定試験

a) 耐 旱 性

現地試験, ガラス室框試験及びポット試験による生理的耐旱性の成績は第5表のとおりである。

現地試験での結果「ハタキヌモチ」は「ハタコガネモチ」と同程度の耐旱性を示しているが, 「農林糯26号」と比較するとやや劣る。しかしガラス室框試験及びポット試験による生理的耐旱性の検定では, 「農林糯26号」に優り総合すると「ハタキヌモチ」の耐旱性は「農林糯26号」程度の強と判定される。

つぎに幼苗草型から耐旱性の程度をみると一般に深根型品種は矮性型Dのものが多く, 耐旱性は一般に強い。「ハタキヌモチ」の幼苗草型は, 第6表の如くMDで

「農林糯26号」のDと比較すると「ハタキヌモチ」の根系深度はやや浅いと思われるが, 生理的耐旱性が強いので, 結果としては第5表に示すとおり耐旱性は強と考えてよい。

b) いもち病耐病性

葉いもち病耐病性特性検定試験は昭和29年以降に畑焼播多室素法により, 穂いもち病耐病性検定試験は昭和29年以降, 畑栽培多室素法により実施した。

両耐病性検定試験は場内実施の他に, 愛知県農業試験場稲橋分場に委託し検討を進めた。この結果は第7表に示したとおりである。

「ハタキヌモチ」は, 葉いもち病, 穂いもち病ともに強くその耐病性の程度は, 対照品種の「農林糯26号」とほとんど変わらないもので, 優れた耐病性をもつものと考

第6表 幼苗草型

品 種 名	幼 苗 草 型
ハタキヌモチ	MD
(比)農林糯26号	D
(比)農林糯1号	ME
(比)ハタキヌモチ	MD

注：D：矮性型  
M：中間型  
E：伸長型

えられる。

c) 穂発芽性

関東地方の陸稲の刈取時期は、しばしば秋雨の続く時期と重りそのために陸稲が穂発芽を起し品質を損うことが多い。以上のことから陸稲の穂発芽性の難易は重要な問題の一つである。

「ハタキヌモチ」は第8表に示しているように穂発芽性は難に属する。

d) 畑灌適応性

「ハタキヌモチ」は、「農林糯26号」に比較して短稈

第7表 いもち病耐病性検定試験 (石岡)

種 類	品 種 名	試 験 年 次 (昭 和)											
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
葉 いもち 病	ハタキヌモチ	強~ やや強	やや強	やや強	強	極強	極強	極強	極強	強	強	強	強~ 極強
	(比)農林糯26号	強	〃	強	〃	強	〃	〃	強	極強	〃	〃	強
	(比)農林糯1号	やや強	中	やや弱	中	やや強	強	〃	やや強	強	〃	〃	中~ 弱
	(比)ハタコガネモチ	強	やや強	やや強	強	極強	〃	〃	強	極強	極強	〃	強~ 極強
穂 いもち 病	ハタキヌモチ	強	やや強	中	極強	強	極強	極強	やや弱	極強	極強	強	極強
	(比)農林糯26号	やや強	強	極強	強	やや強	強	〃	やや強	強	強	〃	強~ 極強
	(比)農林糯1号	中~ やや弱	やや強	やや強	極強	中	やや強	中	〃	〃	やや強	〃	極強
	(比)ハタコガネモチ	やや強	極強	極強	〃	〃	〃	やや弱	〃	〃	強	〃	〃

いもち病耐病性検定試験 (稲橋)

種 類	品 種 名	試 験 年 次 (昭 和)								
		29	30	31	32	33	34	35	36	37
葉 いもち 病	ハタキヌモチ	弱	極強	強	極強	—	やや強	極強	極強	強
	(比)農林糯26号	やや強	〃	極強	〃	—	—	〃	〃	〃
	(比)農林糯1号	中	やや強	強	〃	—	—	—	〃	—
	(比)ハタコガネモチ	中~ やや強	強	〃	—	—	—	—	—	強
穂 いもち 病	ハタキヌモチ	強	やや強	強	やや強	—	やや弱	極強	極強	強
	(比)農林糯26号	〃	強	〃	強	—	—	〃	〃	〃
	(比)農林糯1号	〃	やや強	中	〃	—	強	—	—	—
	(比)ハタコガネモチ	〃	強	強	—	—	—	—	—	やや強

第8表 穂発芽性 (25°C 96時間当り%)

品 種 名	調 査 年 次 (昭 和)		
	38	39	40
ハタキヌモチ	20	20	5
(比)農林糯26号	30	70	10
(比)農林糯1号	20	80	0
(比)ハタコガネモチ	50	50	30

で強稈なことから、畑灌栽培に好適と思われ試験の結果第9表に示すように「農林糯26号」よりは多収を示し、糯品種の中では、畑灌適応性は高い方である。しかし「ハタキヌモチ」は育成上普通栽培用として、選抜を重ねてきているので、現在行なわれている水稻の畑灌栽培のような積極的な多収を目標とする畑灌栽培の適応性は不十分である。

3. 収量ならびに品質

「ハタキヌモチ」の収量性及び品質の調査結果は第10

陸稲新品種「ハタキヌモチ」について

第9表 畑地灌漑栽培適応性検定試験

試験地	種別	試験年次 (昭和)	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	a当 玄米重 (kg)	対標準比率 (%)
茨城(石岡)		35	ハタキヌモチ	8.13	9.19	35.3	109
			農林糯26号	8.14	9.24	32.0	100
栃木(佐野)	早播灌漑	35	ハタキヌモチ	8.11	9.14	34.5	139
			農林糯26号	8.5	9.12	24.9	100
			ハタコガネモチ	8.16	9.8	36.3	146
	普通播灌漑	35	ハタキヌモチ	8.28	10.4	30.8	101
			農林糯26号	8.27	10.10	30.5	100
			ハタコガネモチ	8.27	10.8	27.2	89
神奈川(相模原) (渋谷) (海老名)		31~39 (平均)	ハタキヌモチ	8.27	10.18	26.5	106
			農林糯26号	8.31	10.21	24.9	100
		31~36 (平均)	ハタキヌモチ	8.22	9.28	30.1	112
			農林糯26号	8.23	10.2	26.9	100
		31	ハタキヌモチ	8.26	10.7	31.0	115
			農林糯26号	8.23	10.8	26.9	100
愛知(豊橋)		33	ハタキヌモチ	8.20	10.1	24.4	91
			農林糯26号	8.20	10.2	26.8	100

表のとおりである。この成績をみると「ハタキヌモチ」は、主対照品種の「農林糯26号」より30%の多収を示している(12ヶ年平均)又、早魃年次でも比較的安定した収量をあげることが注目される。関東平坦地、及び西日

本で「農林糯26号」,「農林糯1号」又は「ハタコガネモチ」に替る多収性品種として注目される。

品質については「農林糯26号」より小粒で「農林糯1号」程度で中粒種に属する。米質は各比較品種に優り良

第10表 収量及び品質調査成績(石岡)

品種名	試験年次 (昭和)	a当り 糞重 (kg)	精初歩合 (%)	初摺歩合 (%)	a当り 玄米重 (kg)	対標準 比率 (%)	玄米ℓ 重(g)	玄米千粒 重(g)	玄米品質	概評	備考
ハ タ キ ヌ モ チ	29	32.3	41	79	18.0	115	797	18.6	中上	○	
	30	55.0	18	77	9.2	125	731	17.1	中	◎	早魃年次
	31	51.2	24	77	12.5	108	731	16.3	中上	○	
	32	43.7	42	79	25.4	113	802	22.1	〃	◎	
	33	50.1	36	79	22.3	162	733	19.0	中	◎	早魃年次
	34	41.1	47	82	30.4	115	783	21.2	上	○	
	35	53.2	42	77	30.6	121	774	21.0	中上	○	
	36	30.6	46	75	19.3	125	794	21.2	中中	○	早魃年次
	37	31.2	30	78	10.2	190	783	16.8	中下	○	〃
	38	48.4	46	78	32.9	121	809	22.9	中中	◎	
平均	43.3	36	78	20.2	130	775	19.8	中中	◎	早魃年次	

茨城県農業試験場研究報告 第7号 (1965)

品種名	試験年次 (昭和)	a 当り 籾重 (kg)	精舂歩合 (%)	搦歩合 (%)	a 当り 玄米重 (kg)	対標準 比率 (%)	玄米 l 重 (g)	玄米千粒 重 (g)	玄米品質	概 評	備 考
農 林 糯 二 十 六 号 (比)	29	33.7	38	80	15.6	100	796	19.4	中		
	30	65.4	13	70	7.3	100	715	16.8	〃		早魃年次
	31	51.8	22	78	11.4	100	715	17.7	〃		
	32	47.2	37	80	22.5	100	792	22.1	〃		
	33	49.7	27	75	13.8	100	730	19.8	〃		早魃年次
	34	44.4	42	81	26.4	100	787	21.2	中上		
	35	56.0	36	76	25.3	100	771	21.8	〃		
	36	43.8	33	72	15.4	100	783	21.2	中中		早魃年次
	37	43.2	15	72	5.4	100	781	16.3	下上		〃
	38	51.4	41	75	27.3	100	809	23.7	中上		
	39	50.0	10	75	4.3	100	775	20.0	中下		早魃年次
40	54.9	28	75	12.9	100	747	21.1	中中			
平均		49.3	29	76	15.6	100	766	20.1			
農 林 糯 一 号 (比)	29	37.8	37	80	18.3	118	795	18.2	中上		
	30	55.5	10	78	4.7	64	698	14.6	中下		早魃年次
	31	46.4	22	76	10.2	90	729	15.6	中		
	32	46.4	41	82	26.2	117	800	20.9	中下		
	33	53.8	28	78	16.8	122	715	17.2	〃		早魃年次
	34	45.4	42	83	27.6	105	790	20.4	〃		
	35	58.5	37	77	27.6	109	766	19.8	〃		
	36	37.6	34	73	13.8	90	796	20.5	中中		早魃年次
	37	43.1	18	77	7.2	133	769	15.8	下中		〃
	38	56.3	36	79	26.9	98	804	22.1	中下		
	39	57.1	8	69	3.7	86	771	19.6	中下		早魃年次
40	56.4	27	76	12.5	97	764	19.1	中中			
平均		49.5	28	77	16.3	104	766	18.7			
ハ タ コ ガ ネ モ チ (比)	29	32.8	39	80	17.2	110	796	16.6	中		
	30	73.4	12	79	8.3	114	717	15.6	中下		早魃年次
	31	57.5	22	78	12.1	107	721	15.2	下上		
	32	43.5	43	81	26.5	118	798	20.5	中下		
	33	47.0	34	80	19.1	138	711	16.5	〃		早魃年次
	34	49.4	46	83	31.9	121	768	18.9	中下		
	35	56.3	40	78	30.1	119	769	18.3	中中		
	36	38.4	39	75	18.9	123	782	18.7	〃		早魃年次
	37	42.0	18	78	7.2	133	769	14.0	下中		
	38	48.9	42	79	29.1	107	803	23.1	中下		
	39	53.0	15	76	7.2	167	783	19.6	中中		早魃年次
40	55.9	31	78	15.7	132	780	18.2	〃			
平均		49.8	32	79	18.6	119	766	17.9			

質である。

4. 食味と搦精歩合

食味試験および搦精試験の結果は、第11表、第12表に示すとおりである。この成績によると「ハタキノモチ」

の食味は「ハタコガネモチ」には劣るが他の対照品種には優り佳良である。

搦精歩合は「農林糯1号」と同程度で比較的高く良好と思われる。



陸稲新品種「ハタキヌモチ」について

第11表 食 味 試 験

品 種 名	試験年次 (昭和)	餅					質		
		外 観	粘 り	く ず れ 方	う ま 味	総合評価	順 位	硬 度	
ハタキヌモチ	37	10	9	10	9	9	2		
	38	10	8	8	8	8	2		
	39	8	9	8	8	8	2	26.4	
(比) 農林糯26号	37	8	8	9	8	8	3		
	38	7	7	7	7	7	3		
	39	7	7	7	7	7	3	23.4	
(比) ハタコガネモチ	37	10	10	10	10	10	1		
	38	9	9	9	10	10	1		
	39	10	6	8	10	9	1	27.2	
(比) 農林糯1号	37	7	8	8	8	8	3	—	
	38	—	—	—	—	—	—	—	
	39	—	—	—	—	—	—	—	

注：1. 餅質評価基準は下記による

- 1 もっとも悪い    2 たいそう悪い    3 不 良    4 かなり不良    5 すこし不良  
 6 わずかに不良    7 基 準    8 わずかに良い    9 すこし良い    10 かなり良い
2. くずれ方 10難 1易
3. 硬度は山中式硬度計による

第12表 搗 精 試 験

品 種 名	試験年次 (昭和)	玄米白度	搗精歩合 (%)	水分含有率 (%)	白 度	
					白 度	白米中の 脂 肪
ハタキヌモチ	37	—	79.0	—	—	—
	38	—	—	—	—	—
	39	26.3	83.8	14.3	45.5	0.95
(比) 農林糯26号	37	—	78.3	—	—	—
	38	—	86.7	11.2	—	—
	39	26.1	81.3	13.6	50.0	0.79
(比) ハタコガネモチ	37	—	79.0	—	—	—
	38	—	89.0	11.5	—	—
	39	25.8	79.5	14.7	57.0	10.7
(比) 農林糯1号	37	—	79.0	—	—	—
	38	—	88.0	11.7	—	—
	39	—	—	—	—	—

注：1. 搗精歩合

- 37年佐竹式パーラー  
 38, 39, 循環式精米機に依る (38年 1時間 39年 1時間30分) の搗精
2. 水分 kett の赤外線水分計を使用
3. 白度 光電池白度計を使用

IV 適 応 地 域

関係各都県農業試験場における試作成績の概要は第13表に示したが、この表でも明らかなように、栃木県南部、千葉、山梨、熊本と各県で好成績を示している。

「ハタキヌモチ」は、山間部を除く関東全域及び西日本等「農林糯26号」, 「ハタコガネモチ」, 「農林糯1号」の栽培の行なわれている地帯全般に適応するものと考えられる。

第13表 配布先における試験成績

試験地	昭和31年 対標準 比率 (%)	昭和32年 対標準 比率 (%)	昭和33年 対標準 比率 (%)	昭和34年 対標準 比率 (%)	昭和35年 対標準 比率 (%)	昭和36年 対標準 比率 (%)	昭和37年 対標準 比率 (%)	昭和38年 対標準 比率 (%)	昭和39年 対標準 比率 (%)	対照品種名
栃木 本場	106	150	112	103	95	105	103			農林糯26号
佐野	90	101	100	110	97					ハタコガネモチ (昭31.32農林糯26号)
喜連川				98	99	105	121			農林糯26号
栃木 間々田			96	105	89	99	108			ハタコガネモチ
群馬 本場			99	106	99	128	103			農林糯26号
上郊		93	124	111	113	112		98		農林糯1号
埼玉 玉井	107	80	105	112					90	農林糯4号
入間川	119	96	114	100	82					農林糯1号
千葉 本場	97	108	105	108	102	201				農林糯1号
成田				92	106	87				農林糯1号
東京 本場	91	101	96	99						農林糯26号 (昭34-ハタコガネモチ)
神奈川 本場	70	115	91	103	126	111	107	119	101	農林糯26号
相模原	90	103	105	110	111	91	80	112		農林糯26号
渋谷	104	123	96		106	118				農林糯26号
淵の辺	92	107	118							農林糯26号
海老名	115	94	97							農林糯26号
津久井	86	104	104							農林糯26号
静岡 浜北	105	92	90							ハタコガネモチ
鷹岡		102	87							ハタコガネモチ
山梨 本場	101	99	105	114	107	112		114		農林糯1号
愛知 豊橋		116	91							農林糯1号
三重 本場	74	101	99		117					農林糯1号
伊賀		99	100							農林糯1号
南勢	101	107								農林糯1号
鳥取 本場	97	103	97			102	113	115		農林糯1号
愛媛 久万	53		92	97	94	93				農林糯1号
高知 山間		148	101	86						トサハタモチ
宮崎 都城	105	115								ハタコガネモチ
熊本 本場				124		102	104		113	ハタコガネモチ (昭36-ハタミノリモチ 昭37-農林糯26号)
矢部				92	109	103	105	92	105	ハタコガネモチ (昭35-オワリハタモチ)
平均	95	107	105	110	103	112	106	108	102	

陸稲新品種「ハタキヌモチ」について

V 奨励品種採用の茨城県における成績

品種「農林糯26号」に比較して各地で多収を示している。成績は第14表に示すように、「ハタキヌモチ」は対照

第14表 茨城県に於ける「ハタキヌモチ」の収量成績表

試験地	栽培条件	出穂期 (月 日)	試験年次	収量 (a/kg)	対標準比率 (%)	対照品種名
友部 (畑作 経営 部)	4月中旬播	8.14	35~37	36.1	124	農林糯26号
	“下旬播	8.16	38	36.6	127	“
	5月上旬播	8.21	32~39	29.2	111	“
	“中旬“	8.30	31	14.1	103	“
	“下旬“	8.25	33~34	28.4	109	“
	6月上旬播	9.6	32	21.8	119	“
那珂町	極早播	9.5	37	(31.4)	100	“
	早播	8.30	32~34	(33.8)	100	“
	標播	8.25	35	(33.7)	101	“
	晩播	8.29	32~38	(37.4)	110	“
	平均			(35.1)	104	“
茎崎村	早播	8.19	32~35	(34.2)	109	“
	晩播	8.29	32~34	(32.2)	112	“
玉造町	早播	8.25	32~34	(30.6)	109	“
	標播	8.29	32~39	(31.7)	110	“
	平均			(30.9)	109	“
明野町	標肥畑灌	8.18	32~38	(35.7)	102	“
		8.18	32~34	(33.1)	98	“
	平均			(33.1)	98	“
御前山村	早播	8.24	34~39	(40.4)	106	“
	晩播	8.27	34	(32.6)	94	“
	平均			(39.0)	104	“
水戸市	標準	8.28	32~35	(29.9)	98	“
	増肥	8.30	33	(32.2)	123	“
	平均			(31.7)	107	“
協和村	早播	8.24	38~39	(37.3)	119	“
鉾田町	早播		39	(47.7)	113	“
桂村	標播	8.28	32~33	(39.7)	106	“
	晩播	9.4	32~33	(34.8)	103	“
	平均			(37.5)	104	“
猿島町	早播	8.12	32~39	(38.2)	100	“
	晩播	8.29	32~39	(41.6)	120	“
	平均			(40.7)	109	“

注：( ) は精粒重を示す。

VI 栽培上の注意

「ハタキヌモチ」は中間~やや穂数型の草型でいもち病、耐旱性、倒伏性に強く作り易い品種である。関東地方の中晩生糯品種であり、「農林糯26号」より2~3日

晩いため、北関東、中山間地帯では晩生化して不適である、二毛作の場合は早播にして生育を進めることが、収量および跡作の農作業上からも有利である。

強稈なことから消極的な畑灌栽培には現在の陸稲品種の中では適応性の高い部に属するが、極密植多肥栽培に

は不適である。

白葉枯病にはあまり強くないので、この病気の常発地帯はさけるべきである。

普通栽培の場合の栽培密度は畦巾50~60cmとし、30cm間8~10株程度が望ましく、早害の心配のない畑では30cm間10~12株程度が望ましい。

## Ⅶ 摘 要

1. 「ハタキヌモチ」は、強稈、耐病、多収の中晩生糯品種を育成するため、昭和22年農林省石岡農事改良実験所において「陸稲農林糯1号」を母とし、「陸稲農林7号」を父として人工交配を行ない、同所で(昭和26年より茨城県石岡試験地となる)選抜と固定を進め、昭和40年「ハタキヌモチ」と命名し「陸稲農林糯44号」に登録され、同年より茨城県において奨励品種に採用された陸稲糯品種である。

2. 「ハタキヌモチ」は「農林糯26号」と同程度の中晩生品種で草型は中間~やや穂数型で、稈長は「農林糯26号」より短稈で粒着は中~やや密で稔実よく、芒は少なく稈先色は白である。

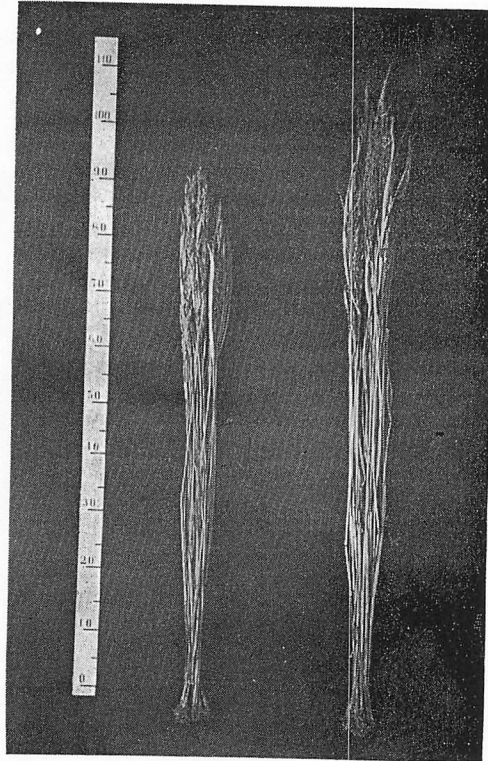
耐旱性は強に属し「農林糯26号」と同程度である。いもち病、紋枯病には強いが、ごま葉枯病、白葉枯病にはやや弱いようである。

畑灌栽培、多肥栽培、早播栽培の適応性は高く多収を示し、普通栽培でも対照品種より多収である。

「ハタキヌモチ」は短稈で、しかも稈質はすぐれ陸稲品種の中では極めて強稈であり倒伏に強い。

3. 「ハタキヌモチ」は熟期が「農林糯26号」と同じかやや晚い、中間型で耐病性、耐旱性がすぐれているので作りやすい品種である。

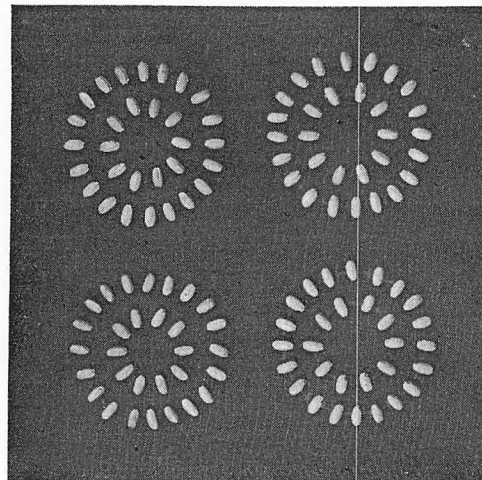
適応地域は関東地方の平坦部および西日本全般に好適すると思われる。なお関東地方では早播が望ましい。



ハタキノモチ

農林糯二六号  
(比較)

写真1 ハタキノモチと比較品種の株



ハタキノモチ

農林糯二六号  
(比較)

写真2 ハタキノモチと比較品種の玄米